

# インド株式の足元の動向について

## ポイント① 2016年度予算案の要点

2月29日、インドの2016年度予算案が発表されました。歳出総額は約19.8兆ルピーと15年度見込み比+11%としました。歳出が拡大する一方、自動車に対する課税強化や国が保有する株式の売却などにより、財政赤字目標を対GDP(国内総生産)比3.5%とし、2015年度目標の3.9%から圧縮する姿勢を示しました。

### 【主な歳出】

- ・道路・鉄道整備に約2兆1800億ルピー
- ・灌がい整備等農業関連に約4800億ルピー
- ・銀行への資本注入に約2500億ルピー

## ポイント② 株式市場に反転の兆しか

インド株式市場は、昨年4月以降、グローバル投資家のリスク回避姿勢が高まったことや、インドの企業業績が市場の予想を下回ったこと、モディ政権に対する政策期待の剥落などを背景に下落し、モディ政権誕生時の水準近辺まで下落しました(図1)。しかし、2016年度予算案発表の翌日以降、反発に転じており、反転の兆しを見せています。

## ポイント③ 今後の株式市場の見通し

インドの企業業績は、2016年度より本格的に回復局面となり、他の先進国や新興国と比べても高い伸び率になることが予想されています(図2)。一方で足元のバリュエーション(投資価値評価)は、予想PERで2005年3月末以降の平均並みの水準にあり、業績回復局面で株価が大きく上昇する可能性があると考えます(図3)。

短期的には、モディ政権が財政赤字を圧縮することを明示したことで、インド準備銀行(中央銀行)による政策金利引き下げの可能性が高まっています。利下げが行なわれれば、インド経済の更なる支援材料となり、株式市場にとっても追加的なプラス要因となる可能性があります。

導入が遅れている物品サービス税(GST)については、足元の市場の期待は低く、現在開会中の予算国会で可決できれば大きなプラス要因になると考えています。

### 重要 イベント

2月23日～3月16日	予算国会(前半)
4月5日	金融政策発表
4月25日～5月13日	予算国会(後半)

図1：MSCIインド指数(現地通貨建て)の推移  
(2013年12月31日～2016年3月3日、日次)

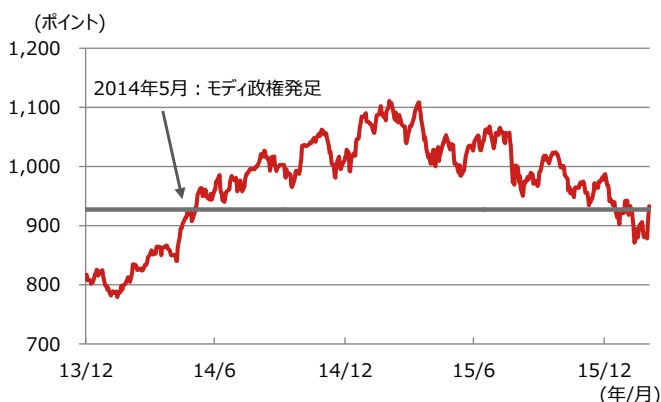
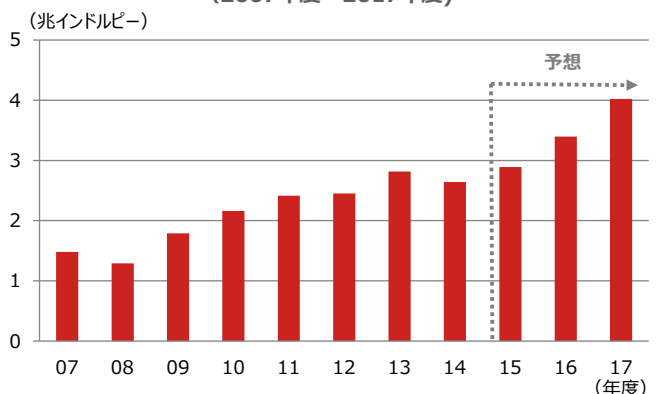


図2：インド企業業績の業績推移  
(2007年度～2017年度)



(注) インド企業の純利益。MSCIインド指数採用銘柄のなかで継続してデータ取得可能な銘柄が対象。2015年以降はFactSet集計予想(2016年3月2日現在)。年度は当該年4月から翌年3月の期間。

図3：MSCIインド指数の予想PERの推移  
(2005年3月末～2016年2月末、月次)



(出所) Bloomberg、FactSetのデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。